

〔倉田白羊氏個展〕

昭和九年三月 十一日迄

いづれも小品ではあるが、出陳二十七点。従来の細密描写を離れて、荒いタッチで《鳥羽の海》《瀬戸の山》等を試みてゐるが、効果は余り上つてゐない。やはり細密描写による《夏の葡萄園》の如くは或は《初夏の真昼》の様に克明に色彩と光と構図に注意して描き上げたものの方が、氏としての持ち味「が出てゐてよい。《とり入れ時》などは明るい気分のみな農村風景画巧みに表現されてゐる。

その他野に結実する《あけび》を描いて、美しい紫によつてこの果実の風味を出し《花》《柰榴》をも描いてゐる。

（十一日迄 資生堂）